

エディトリアル

地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター センター長 中村正和

医食同源という言葉に示されているように、食は生命を養い、健康を保つために欠かせることができないものである。また、食は日常の楽しみであり、人をつなぐものであり、文化でもある。

わが国では、食生活や栄養上の健康課題として、若い女性のやせ、全世代に共通する食塩の過剰摂取、肥満に関連した糖尿病やメタボリックシンドローム、高齢期の低栄養によるフレイルなどが指摘されている。

本特集では、外来、入院、在宅医療、地域社会において、患者や家族、地域住民に寄り添いながら、チーム医療の一員として活躍する管理栄養士の活動や役割を紹介し、管理栄養士への理解を深めるとともに、地域包括ケアにおける食の課題解決に役立てていただくことをねらいとした。

まず総論として、青森県立保健大学の吉池信男学長から、管理栄養士への理解を深めるために、法律上の定義や養成の現状と、人々の食行動や栄養状態を理解するための理論的枠組みを紹介していただいた。この枠組みに基づき、管理栄養士の役割として、食に関わる個人の嗜好や信念への働きかけに加えて、食環境としての食べ物と情報へのアクセスの改善に向けた活動の重要性を解説していただいた。

次に、各論として、青森県六ヶ所村医療センターの坂本悦子主任には、2014年から管理栄養士が中心となって多職種の医療スタッフが連携して行う糖尿病患者のエンパワーメント支援「健康おたすけ隊」の活動内容を紹介していただいた。約8年に及ぶ取り組みにより、糖尿病の重症化予防のために設定された9項目の評価項目を問診や検査により個別または集団レベルで定期的に評価し、栄養指導も含めた医療の質改善活動を組織的に行う体制が確立している。医療センターからの積極的な働きかけにより、職域や地域との連携も始まっており、今後、地域全体の糖尿病の重症化予防への発展が期待できる取り組みである。

東京都の練馬光が丘病院 廣瀬桂子栄養室長には、「攻めの栄養」を合言葉に、日々奮闘する栄養室の姿をエネルギーにご報告いただいた。栄養室が栽培する野菜を使つての個別対応食、管理栄養士の「病棟配置制」、NSTにおけるリフィーディング症候群の予防活動は独創的または先進的な取り組みであり、チーム医療において管理栄養士が熱意をもって積極的に関わっている様子が伝わってくる。さらに、委託給食会社をはじめ、地域の生産者、管理栄養士養成大学、地域の配食業者と連携して、急性期から在宅までの食事療養をサポートするシステム構築も検討されており、今後の一層の発展が期待される。

新潟県湯沢町保健医療センターの柳真紀医療技術副部長兼栄養室長からは、医療センターが行う在宅療養者の栄養管理について、専門職助言者として参加している地域ケア個別会議について紹介していただくとともに、同会議での検討がされた糖尿病で低栄養状態にある要支援の事例を取り上げ、自立に向けた専門職のチームの見解や助言と、食事指導の実際について具体的に説明していただいた。在宅療養者の栄養を守るためには、医療施設での関わりに加えて、地域ケア個別会議や地域で開催される研修会などを通じて、在宅療養者を支える多職種との連携の輪を構築することと、支援の際に利用できる地域資源を整えることの大切さを改めて認識させられる。

最後に、ヘルスプロモーション研究センターの川畑輝子研究員から、地域社会における減塩に向けた食環境づくりをテーマに、青森県東通村での地域の取り組みと台東区立台東病院における職場の取り組みについて紹介していただいた。いずれも、同研究センターが企画の段階から関わっている事例であり、教育面と環境整備の両面から減塩に向けた取り組みが実施され、減塩をテーマにヘルスプロモーションの方法論が学べる事例となっている。後者では、最近わが国でも健康政策に利用されつつあるナッジを活用した環境整備が実施され、その効果も評価されている。健康低関心層を含めた集団全体の行動変容を促すには、身近な食環境を変えることの重要性に気づくことができる。

食することは生きる上で必要不可欠な営みであり、いわば食べる「くすり」である¹⁾。高齢化が急速に進む中で、地域医療やケアのチームの一員として、管理栄養士の役割と期待が大きくなっている。今後、時代のニーズに応える人材育成が重要になるが、連携を求められる医師をはじめとする医療スタッフ側には、管理栄養士との連携にあたって栄養学に関する見識が求められる。医学部教育における栄養学教育の不足は国際的に指摘されているが¹⁾、わが国でも同様であり、その改善にむけて日本学術会議から提言がなされている²⁾。今後、住民に寄り添った地域包括ケア体制を築く上で、医師のみならず、医療専門職の卒前教育や卒後教育においても栄養学教育は必要と考える。

文献

- 1) Downer S, Berkowitz SA, Harlan TS, et al: Food is medicine: actions to integrate food and nutrition into healthcare. BMJ 2020; 369:m2482. doi: 10.1136/bmj.m2482.
- 2) 日本学術会議. 提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」, 2020年8月11日. <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t293-3.pdf> (accessed 2022 May 10)